

ISICO PRESS



P.02 緊急特集

令和6年
能登半島地震により
被害を受けた事業者の
皆様への支援制度

P.04 第2特集

大学発スタートアップの発掘へ 「石川テックプラングランプリ」を初開催

大学の有望な研究シーズを発掘し、事業化を後押しする「第1回石川テックプラングランプリ」。詳しくは第2特集をご覧ください。

P.08 サキドリ

(株)谷口

P.10 フロム・ユーザーズ

(有)のさか

P.12

TOPICS

【表紙撮影／黒川博司】

令和6年能登半島地震により 被害を受けた事業者の皆様への 支援制度

ぜひ
ご相談ください



令和6年能登半島地震により被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

ここでは国や県（関係団体含む）の主な支援策をまとめて紹介しますので、ぜひご利用ください。また、ISICOでは被災された中小企業・小規模事業者を支援するため、特別相談窓口を設置しています。相談をご希望の方はお気軽にご連絡ください。

令和6年2月15日現在

■ 国や県（関係団体含む）の主な支援策一覧

	目的	支援策	融資内容	連絡先
融資	設備や施設を復旧したい 売上減で資金繰りが厳しい	日本政策金融公庫による 資金繰り支援 	令和6年能登半島地震特別貸付 (1/31より取扱開始) 【限度額】中小企業:別枠3億円 国民生活:上乗せ6千万円 等 【金利】所定の金額を限度に、 当初3年間災害金利▲0.9% 等 ※4年目以降は▲0.5%	日本政策金融公庫 金沢支店中小企業事業 ☎076-231-4275 金沢支店国民生活事業 ☎0570-045-202 小松支店国民生活事業 ☎0570-045-445
		信用保証による 資金繰り支援 	災害関係保証、セーフティネット保証4号 により、一般保証とは別枠での保証枠の 利用が可能	石川県信用保証協会 ☎076-222-1550
			伴走支援型特別保証の利用に必要な 計画提出の猶予等	
		石川県融資制度 	ゼロゼロ融資等のリスク時の保証料補助 (リスク時に係る追加保証料負担ゼロ)	県内金融機関
			物価高騰対策等総合支援特別融資 【限度額】1億円 【金利】1.0% 等 【保証料】免除 災害対策融資 【限度額】8,000万円 【金利】1.0% 【保証料】0.33~1.35%	

	目的	支援策	補助内容	連絡先
補助金・助成金	前向きな取り組みにより、 災害からの事業再建を 図りたい	小規模事業者持続化補助金 (災害支援枠) 1次公募 2/1~2/29  1次公募終了後、 速やかに2次公募を開始予定	被災小規模事業者による販路開拓等の 事業再建に向けた取り組みを 最大200万円まで2/3補助	<商工会議所地区> 最寄りの商工会議所 または <商工会地区> 最寄りの商工会

	目的	支援策	補助内容	連絡先
補助金・助成金	設備や施設を復旧したい	なりわい再建支援補助金 2月下旬予定 県	設備や施設の復旧整備に係る経費を、 最大 15億円 まで 3/4 補助	なりわい再建支援補助金に 関するお問い合わせ先 ☎0570-076-225
	商店街が所有する 設備や施設を復旧したい	商店街災害復旧事業補助金 2月下旬予定 県	被災したアーケードや街路灯等の復旧整備にかかる費用及び、来街を妨害するような障害物の除去費の 3/4 を補助	石川県経営支援課 ☎076-225-1521
	イベント等の取り組みにより、 商店街のにぎわいを 創出したい	商店街にぎわい創出補助金 公募期間:2/16~4/19 県	災害の影響により、来街者数及び売上が減少した商店街が実施する「にぎわい創出の取り組み」を最大 100万円 まで定額補助	石川県経営支援課 ☎076-225-1521
	伝統産業事業者が 事業を再開したい	伝統的工芸品産業支援補助金 (災害復興事業枠) 1次公募終了。 2次公募が分り次第、 HP等でお知らせします。 国	伝統的工芸品の製造を再開するために必要な ①設備・機器等の購入費及び修繕費、 ②原材料の購入費及び型等の試作・製作費を、最大 1,000万円 まで 3/4 補助	経済産業省 中部経済産業局 産業部 製造産業課 ☎052-951-2724
	雇用を維持したい	雇用調整助成金 国	一定要件で、 休業手当等の 2/3 (大企業) もしくは 4/5 (中小企業)、 最大 8,490円/日 を助成	石川労働局 職業安定部職業対策課 ☎076-265-4428
		雇用保険の特例 国	被災により事業所が休止・廃止したために 休業して賃金の支払いがない場合に、 実際に離職していなくても雇用保険の失業給付を受給できる	石川労働局 職業安定部職業安定課 ☎076-265-4427

※支援メニューの詳細や最新の情報は、各連絡先までお問い合わせください。

石川県ではワンストップコールセンターを開設しています

各種支援制度の
総合窓口はこちら

受付時間 9:00~18:00

電話番号 ☎0120-330-955

各種支援制度の活用サポート及び経営に関するISICOの相談窓口

■ コンサルティング事業部 経営支援課	☎ 076-267-1244	受付時間 9:00~17:00
■ 石川県よろず支援拠点	☎ 076-267-6711	

■ 商工会・商工会議所等の支援機関では、各種支援制度の活用サポートを行っています。

金沢商工会議所 金沢市尾山町9-13	☎ 076-263-1151	珠洲商工会議所 珠洲市飯田町1-1-9	☎ 0768-82-1115
小松商工会議所 小松市園町ニ1	☎ 0761-21-3121	白山商工会議所 白山市西新町159-2	☎ 076-276-3811
七尾商工会議所 七尾市三島町70-1	☎ 0767-54-8888	石川県商工会連合会 (※) 金沢市鞍月2-20	☎ 076-268-7300
輪島商工会議所 輪島市河井町20-1-1	☎ 076-225-1525	石川県中小企業団体中央会 金沢市鞍月2-20	☎ 076-267-7711
加賀商工会議所 加賀市小菅波町1-130 クロスガーデン3階	☎ 0761-73-0001	※お近くの商工会にお問い合わせいただくことも可能です。	

大学の研究シーズの事業化や集合知による課題の解決に期待を寄せた西垣副知事(写真左)とリバネスの高橋COO(写真右)。



第2特集

大学発 スタートアップの 発掘へ

「石川テックプラングランプリ」を初開催



県とISICOは昨年12月2日、大学の有望な研究シーズを発掘すると同時に、県内に拠点を持つ企業等とマッチングし、事業化を後押しする「第1回石川テックプラングランプリ」を県地場産業振興センターで開催した。当日はファイナリスト9チームがプレゼンテーションに臨み、高効率マイクロ波加熱装置の開発について発表した高周波加熱研究所(発表者／藤田萩乃さん)が最優秀賞に輝いた。



高等教育機関の集積生かす

石川県の強みのひとつと言えるのが、大学など高等教育機関の集積である。人口10万人当たりの集積率が全国1位という地域の強みをスタートアップ創出に結び付けようと、県とISICOが企画したのが「石川テックブラングランプリ」だ。

石川テックブラングランプリは、単なるコンテストにとどまらず、大学内のシーズの発掘から事業化に向けたビジネスマッチングまで取り組む点が大きな特徴だ。開催にあたってはリバネス(本社／東京・大阪)と連携した。同社はスタッフほぼ全員が修士号や博士号を持つ研究者集団だ。また、国内12地域で大学等研究機関の成果を社会実装するプログラムを運営し、実績も豊富だ。

開会にあたってあいさつした西垣淳子副知事は、「国連の世界知的所有権機関(WIPO)が発表した人口あたりのイノベーションランキングで金沢地区は国内トップの世界11位だった。ただし、イノベーションが事業化に結びついているかと言えば大きな課題であり、発表者の皆さんをしっかりと支援しながら県経済の成長に結び付けたい」と述べた。

また、リバネスの高橋修一郎代表取締役社長COOは「社会が抱える課題はどんどん複雑化し、もはやひとつの会社が単独で解決できる世界ではない。発表者の知識と、審査員や聴講している皆さんの知識をしっかりと合わせて地球貢献を実現したい」と期待を込めた。



最優秀賞を受賞した高周波加熱研究所の藤田さん。「私の思いもよらない使い方がきっとあるはず。加熱の課題を皆さんと一緒に考え、解決していきたい」と呼び掛けた。

70%以上の加熱効率を実現

第1回石川テックブラングランプリには16チームのエントリーがあり、当日は書類選考を勝ち抜いた9チームがファイナリストとして登壇。1チーム7分間の持ち時間の中で、研究内容や事業化の可能性などをアピールした。

審査は県内外の企業の代表者ら9名が担当し、高橋COOが審査員長を務めた。審査のポイントは「新規性」「実現可能性」「世界を変えそうか」「パッション(情熱)」の4点だ。

厳正な審査の結果、「驚異的な効率化であり、世界で勝てる」「工業プロセスを大きく変える技術」と評価され最優秀賞に輝いたのは、高周波加熱研究

所である。発表者は石川県立大学講師の藤田萩乃さんだ。藤田さんが発表したのは楕円型のチャンバ(容器)を使い、マイクロ波を効率的に集中させ、加熱する装置だ。マイクロ波を使った加熱装置の代表は電子レンジだが、加熱効率を比較すると、電子レンジが20%以下にとどまっているのに対し、現在研究中の装置は70%以上と非常に優れている。また被加熱物を狙った温度にすることもできるという。

当日はこのほか、パートナー企業9社から高周波加熱研究所を含め7チームに社名を冠した賞が贈られた。ISICOでは入賞者の今後の事業化に向け、共同研究に取り組む企業とのマッチングや事業計画の磨き上げを支援していく方針だ。

大学発
スタートアップの
発掘へ
石川テックブランランプリ

痛くない注射針の開発に注力

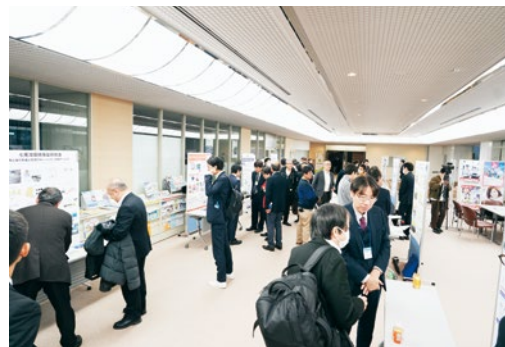
ファイナリストのプレゼンテーションの前には、2018年にISICO主催の「スタートアップビジネスプランコンテストいしかわ」で最優秀起業家賞に輝いたシンクランド(川崎市)の宮地邦男代表取締役CEOがロールモデル起業家として基調講演を行った。

宮地CEOは加賀市出身で、金沢大学理学部を卒業後、大手セメント企業などを経て、2014年にシンクランドを創業した。以来、チャレンジしているのが痛くない注射針の開発だ。千葉大学が特許を保有する光渦レーザー加工技術によって、直径を蚊の針に近い100ミクロン以下にまで細くすることで、注射した際、肌の痛みに当たらないようにする。

2022年からは目元のしわを改善する美容液を注入するための針などとして実用化がスタートした。医療用としてはまだいくつものハードルをクリアしなければならないが、「医療の常識を変えたい」と今後の開発に意欲を示した。



ロールモデル起業家として痛くない注射針の開発状況などについて講演したシンクランドの宮地CEO。



審査中にはロビーでポスターセッションが開かれ、ファイナリストが取り組みの詳細を解説した。

書類選考を経て選ばれたファイナリストが自身の取り組む研究内容や事業化の可能性について熱くプレゼンテーションした。



ファイナリスト／発表テーマ／受賞結果

● チーム名・発表者	● 発表テーマ	● 受賞結果
ForceFab 西村 斉寛	カセンサを印刷可能な次世代 3Dプリンタ	リアルテックファンド賞
高周波加熱研究所 藤田 萩乃	焦点集中！楕円チャンバによる 高効率マイクロ波加熱装置の開発	最優秀賞 みずほ銀行賞
Deep ocean water 平山 順	能登海洋深層水の機能を見出す 「ウロコアッセイ技術」	マテーレ賞
A.O.Industries 赤坂 剛史	暮らしを豊かにするドローン配送システム	
再生医療組織バンクチーム 松村 和明	再生医療実用化のための組織バンクの設立	
七尾湾環境保全研究会 長尾 誠也	陸と海の栄養と年間のキャパシティ評価サービス	BIPROGY賞
NSTI ソーラーテクノロジーズ 中野 正浩	安価で設置自在な薄膜太陽電池の開発	PFU賞 フォーカスシステムズ賞
Turtle Knee 坂本 卓弥	変形性膝関節症の細胞治療における 革新的検査システム	三谷産業賞
Smart DC Lab. 夏梅 大輔	直流による地産地消エネルギーシステム	アイ・オー・データ賞 QRインベストメント賞

>> 審査員

審査員長		
■ 高橋 修一郎	(株) リバネス	代表取締役社長 COO
■ 堀 英司	(株) アイ・オー・データ機器	執行役員事業開発室部長
■ 奥谷 晃宏	小松マテーレ(株)	技術開発本部理事／技術開発本部長補佐／新規事業開発部長
■ 宮内 康範	(株) PFU	取締役執行役員常務 CTO／事業開発本部長
■ 平岡 昭良	BIPROGY (株)	代表取締役社長 CEO・CHO
■ 椿 瞭	(株) フォーカスシステムズ	IT イノベーション第二事業本部セキュアサービス室
■ 浜野 文雄	(株) QR インベストメント	代表取締役社長
■ 堀 啓佑	(株) みずほ銀行	イノベーション企業支援部次長
■ 内田 大剛	三谷産業(株)	取締役 CFO/CCO・(株) Carbon Ventures 代表取締役社長

SAKIDORI
サキドリ

世界で最も薄い
柔軟な木の素材で
建築内装シートを開発

谷口は、世界初の柔軟性のある木の素材と革を組み合わせたバッグのブランド「wBOIS(ワールドボイス)」で一躍、脚光を浴びた。今回、その素材を建築内装シートに転用。用途の幅広さから大手企業からも注目を集めている。



建築会社の一室に施工されたボイスアート。1年が経過し、経年変化で木の色合いに深みが出ている。



「建築部門の売り上げを全体の50%にまで引き上げたい」と語る谷口社長。

(株)谷口

金沢市駅西新町2-19-17
TEL. 076-223-5451

代表者 谷口 正晴
創業 1947年4月
資本金 3,000万円
従業員数 12名

事業内容 木製工芸品、木製家具、
wBOIS商品/MOKU商品、
木製ステーションリー、基筒



ホームページ

壁に張るだけで
本物の木の香りと温かみ

谷口が2009年に発表したワールドボイスは、「木は割れやすい」という概念を根底から覆した先進性がファッション業界を驚かせた。ワールドボイスに使われている素材は、0.12~0.15ミリの薄さの木に柔軟性をプラスする特殊な加工を施し、不織布を張り合わせたものだ。ワールドボイスの売れ行きは好調で、大手セレクトショップ「BEAMS(ビームス)」とコラボレーションしたバッグも展開している。

このワールドボイスをベースに22年、谷口は建築業界に進出した。谷口正晴社長は「私たちの主力である木工芸をはじめ、伝統工芸は非常に景気が悪い。工業製品の新分野で活路を見出したかった」とその意図を語る。

第一弾となる商品は、ISICOの「いしかわ中小企業チャレンジ支援ファンド」を利用し、同年にワールドボイスを改良して開発した建築内装シート「BOIS ART(ボイスアート)」だ。ワールドボイスとの大きな違いは、刃の当て方や角度を調整して、木材の厚みを0.08ミリにまで薄くスライスした点にある。さらに、不織布の代わりに和紙を使用した。

ボイスアートに使われる木材は、能登ヒバ、ヒノキ、スギなど多岐にわたり、従来の壁紙と違い、張るだけで木の香りや温かみが感じられるのが特徴だ。

また、耐震性の高さから近年、増加傾向にある鉄骨住宅でも鉄骨や壁材にボイスアートを張れば、木の質感を存分に感じられる。

不燃材料に認定
施工も手間いらず

ボイスアートは、建築内装シートとして、国土交通省から不燃材料、準不燃材料、防災認定取得壁紙

として認定を受けている。使用する接着剤や和紙を改良したほか、世界最高の薄さが認定の決め手となった。木は薄くするほど燃える時間が短くなるため、延焼する可能性は低くなる。この点が評価されたのだ。

開発にあたっては、内装業者が簡単に張れることを念頭に置いた。どんなにいい商品であっても施工に手間がかかると採用されないからだ。そのためボイスアートには、伸び縮みしない裏紙を使用した。

発売前にはISICOの支援を受けて石川県工業試験場の引っ張り試験や摩擦試験をクリアし、耐久性についても問題ないことを証明した。

大手企業も注目 実績の上積み急ぐ

建築内装シートにとどまらず、大手製紙会社とコラボレーションし、日差しをさえぎる「能登ヒバシェード」の商品開発も行った。上げ下げによる劣化も少なく、薄い木から差す柔らかな光が魅力だ。

これらの商品を持って東京ビッグサイトなどの展示会に出展したところ、5分ごとに来場者の対応に追われるなど大きな注目を集めた。大手企業からの引き合いも少なくなく、問い合わせだけでも100社は優に超えた。

中でも、大手スポーツ用品メーカーからは、製造工程で一定数発生するバットの不良品を使って、建築内装シートとして再利用したいとの申し出があった。さらに、大手ゼネコンは現在、インテリア材としての活用試験などを行っている最中だ。能登ヒバシェードは温泉旅館といった大口の顧客からの問い合わせが多いという。

しかし、企業が導入を決める上でネックになっているのが実績だ。バッグとしての実績は十分だが、建築業界での実績はほとんどない。そんな中、



2023年度の「プレミアム石川ブランド製品」に選定され、谷口社長は「石川県のお墨付きをもらうことで、企業の方に安心感を持ってほしい」と期待を込める。

再建のため 協業企業と提携して 量産体制の構築を

もう一つの課題は、量産体制の構築である。実際に住宅や商業施設の内装に使われるようになれば、大量の建築内装シートが必要になり、現在の生産能力では不十分だ。

加えて、年初の能登半島地震で穴水町の工場が被災し、3棟のうち2棟が倒壊した。工場で勤務する6人のうち3人が仕事を続ける意志を示しており、工場は再建する予定だが、設備を増強する余力はないことから、同社では、同レベルの技術力を持った信頼できるパートナーを見つけ、協業したいと考えている。

谷口は、囲碁の碁笥(碁石の器)で全国シェア約60%を占め、77年にわたって木工の技術と伝統を守ってきた歴史を持つ。谷口社長は「これからも伝統工芸を守っていくには、自分たちが変わることも必要だ。そのためにも住宅の新しいかたちを目指して建材部門の販路を広げていきたい」と意気込んでいる。

写真左)子どものころから木に親しんでほしいと考えて販売する木製の折り鶴。

写真右)木製ブラインドの人気の高まりに合わせ、注目を集めている「能登ヒバシェード」。



鼻緒付きの靴の中敷きを開発 足指の力を高め、健康をサポート

靴の製造・販売を手がけるのさかは昨年6月、鼻緒付きの靴の中敷き「スライドループインソール」を発売した。これは靴に入れて歩くだけで、足指が鍛えられる商品で、県の「プレミアム石川ブランド製品」に認定された。現在、専門家のフォローアップ支援を受けながら、魅力アップを目指し、磨き上げに取り組んでいる。



靴に入れて歩くと、足指の筋力がアップし、浮き指の予防、改善につながる「スライドループインソール」。

一本下駄から着想した靴 100万足が売れる人気

のさかは専門的な知識と技術を持つシューアドバイザーが、足の長さや幅、甲の高さなど、足の形を立体的に計測した上で、その人に合った靴を提案するこだわりの靴店だ。現在は金沢、小松、富山、大阪に計6店舗を展開している。実店舗のない場所でも足の計測を体験できる場を作りたいと、2年前には移動販売車を導入した。

販売している靴はすべて同社のオリジナルだ。中でも代表作と言えるのが「ストレッチウォーカー」と名付けられたウォーキングシューズだ。靴底は、つま先とかかとに柔らかなクッション材を、土踏まずの当たる中央部に硬い素材を採用しており、立ち止まっているときは一本下駄を履いたときのように不安定だが、ひとたび歩き出すと、自然と正しい体重移動ができて筋肉をバランスよく鍛えることができるようになって

いる。

ストレッチウォーカーは、日本はもちろん、ヨーロッパやアメリカでも好評で、海外の提携販売店の売り上げも含め、発売から20年余りで累計100万足を売るロングセラーとなっている。

体の不調を引き起こす “浮き指”を改善

そんな同社が昨年6月に発売したのが、鼻緒付きの靴の中敷き「スライドループインソール」だ。底の薄いビーチサンダルのような形状で、使用方法是靴の中に入れて履くだけ。足が靴の中でしっかりと安定するほか、歩くたびに鼻緒をつかもうとするため、自然と足の指の筋肉が鍛えられる。

「昔よりも歩くことが減り、すり足になるような履物が多いため、指が地面に付かない“浮き指”になっている人が増えている。足指の力が弱いと血行不良や冷え性、腰痛、膝痛、肩こり、外反母趾など、体の不調を引き起こすことにもなる」。そう説明するのは野坂知恵美副社長だ。

こうした不調の解消、緩和を期待できるのがスライ



2年前に導入した移動販売車。あるイベントでは2日間で約100人が足を計測。後日、店舗に足を運び、購入してくれる人もいた。

ドローインソールである。使い始めて3、4カ月もすると足裏のバランスが整い、浮き指が改善され、野坂副社長の言葉にあるような不調も緩和されるという。

立ち仕事の人にもおすすめで、愛用者から「たこや魚の目がよくなった」「むくみが改善された」といった喜びの声が寄せられている。

説明しなくても 魅力が伝わる商品に

スライドロープインソールは昨年10月、新規性や独自性に優れ、将来魅力的なブランドとして成長が期待できるとして県から「プレミアム石川ブランド製品」に認定された。同社では著名なマーケティングコンサルタントによる県のフォローアップ支援を受け、来春発売に向けてリニューアル作業を進めている。

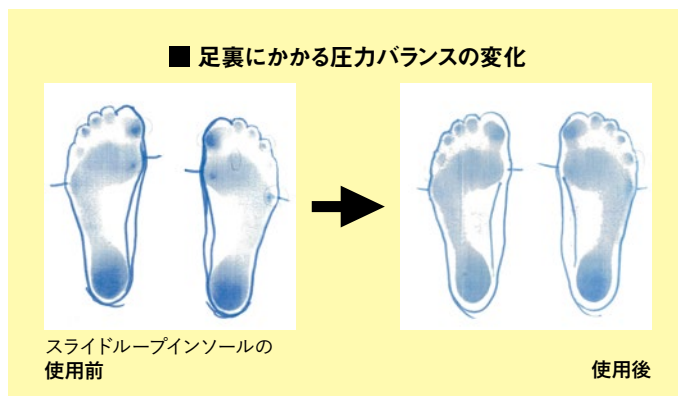
例えば、今はばらばらに入っているパーツを購入者が組み立てて使用するのに対し、最初から組み立てた状態で販売するように変更するのもしリニューアル点の一つだ。これは「ぱっと見ただけでどんな商品かわかるようにした方がいい」「商品の説明をしないと魅力が伝わらない」といった指摘を受けて見直したもので、パッケージには、販路や購入者層に合わせて商品を使用した際のメリットを分かりやすく記載する。

また、「国内だけでなく、世界の市場でも売れる可能性がある。そのためにはサステナビリティを意識したパッケージにすべき」とのアドバイスを受け、パッケージは従来のビニール製から再生紙製に変更する。「将来を見据えたものづくりの考え方を学ぶことができた」と高田奈智子企画部長は振り返る。

リニューアル後は靴店だけでなく、スポーツやアウトドア、ガーデニング用品の店舗にも販路を拡大する計画で、ISICOも専門のアドバイザーによる販路開拓支援やホームページでの情報発信などによりバックアップしている。

オンラインショップ用の 商品撮影を自動化

ところで、同社のオンラインショップでは、実店舗と同様に、一人一人の足に適したサイズの靴を提供するため、自宅に無料で足の簡易計測ツールを送り、測定後にコンシェルジュとチャットでやり取りしながら靴選びをできるようになっている。



オンラインショップ上に掲載されている靴の写真の撮影には、2022年にISICOのデジタル化設備導入支援事業を使って導入した自動撮影機を活用している。従来はプロカメラマンが撮影し、背景の切り抜きや明るさの調整はスタッフの手作業だった。自動撮影機ではターンテーブルに靴をのせるだけで、さまざまな角度から写真を撮ってくれるほか、切り抜き加工や補正もお任せで、大幅な効率化が実現した。

オンラインショップを充実させる一方、「将来は全国に直営店を出したい。そのためには人材が必要で、育成の仕組みを整えたい」と話す山口百恵社長。「これまでもISICOの専門家派遣制度を利用し、知財戦略、生産性の向上、5S、卸販売の仕組みづくりなど、その時々で必要なアドバイスを受け、助けられた」と話し、今後もISICOの支援メニューを活用しながら、会社の成長につなげる考えだ。



写真左から高田企画部長、山口社長、野坂副社長。

(有)のさか

金沢市泉野出町4-3-29
TEL. 076-255-7741

代表者 山口 百恵
創 業 1957年1月
資 本 金 500万円
従業員数 50名
事業内容 靴の製造・販売・卸



ホームページ

チームで目標達成するための“勘どころ”とは？

“超”入門!管理職講座を開催

ISICOは2月1日と6日に、県内中小企業の管理職向けに「“超”入門!管理職講座～チームで成果を出す目標管理スキル編く全2回>」をオンラインで開催しました。講師は(株)PDCAの学校代表取締役の浅井隆志氏(写真)が務めました。

当日はオンライン上でグループワークを実施し、参加者からは「目標管理の進め方が分かった」「講座で習った内容をすぐに実践できて参考になった」といった声が聞かれました。



新商品PRの場として活用しませんか

新商品展示ギャラリー

ISICOでは、地場産業振興センター本館1階のじばさんギャラリーで、県内中小企業等が開発した新商品等の普及を図るため、新商品展示スペースを常設しています。概ね1年以内に開発した新製品等を対象としています。利用料金は無料です。ぜひご利用ください。



詳しくはこちら

皆さまの「困った」を解決します

専門家派遣事業のご案内

ISICOでは、中小企業等の新たなビジネス創造や経営革新、経営力アップを目指す経営者の皆様のサポートとして、外部専門家(各分野の専門的な知識や経験を有する専門家)を派遣し、アドバイスを実施します。

「売り上げをアップさせたい」「社員や後継者を育成したい」「新商品(自社製品)を開発したい」「ホームページを作りたい・見直したい」など、多岐にわたる相談に対応しています。お気軽にご相談ください。



詳しくはこちら

編集後記

今年に入り、はや2カ月が経とうとしています。年々、一日一日が過ぎるのを早く感じている今日この頃です。

今回の第2特集では、初開催となる「石川テックブラングランプリ」を紹介しました。私も聴講しましたが、魚のうろこを使って新しい技術を開発したり、薄い電池を開発したりと、どれもこだわりがある発表ばかりで、皆さんの熱い思いがひしひしと伝わってきました。

情報誌の取材でお会いする企業経営者の皆様も、熱い思いをお話いただき、それを惜しむことなくこちらに届けようとする姿勢は毎回勉強になりパワーをいただいています。自分の体にも甘いものなどのパワーをすぐに与えがちなため、これからは少しずつ発散していきたいです。(F)

能登のために、石川のために
応援消費
おねがい
プロジェクト
石川県

「能登のために、石川のために
応援消費おねがいプロジェクト」
JAPAN HEART (石川県)



詳しくはこちら

